

令和5年度

境港市子ども・子育て会議 会議録

日時 ◇ 令和5年12月27日（水） 19:00～20:00

場所 ◇ 境港市保健相談センター講堂

出席委員 ◇ 委員13名（別添）

（出席8名、欠席5名）

傍聴者 ◇ なし

会議書記 ◇ 子育て支援課児童係長 川田順子

(副会長) こんばんは、皆様本日は年末の大変お忙しい中にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。

第2回子ども・子育て会議をはじめさせていただきます。

本日、嘉賀会長が急用で欠席のため、柏木が職務代理を務めさせていただきます。では初めに、事務局より報告をお願いします。

(事務局) それでは、報告をさせていただきます。

本日、数名の委員様より欠席連絡があり、今現在8人の委員にご出席をいただいております。境港市子ども・子育て会議設置要綱第6条の規定にあります、半数以上の委員にご出席をいただいておりますので、ここに会議が成立することをご報告させていただきます。

(副会長) はい、では、お手元の次第2番、境港市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査(案)について審議させていただこうと思いますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 事前に送付いたしましたアンケート調査案、資料の方の確認をさせていただきます。

無い方がいらっしゃいましたら、余部をご準備していますので、挙手にてお知らせください。また、次第と一緒に本日配布しております資料を2枚机上に配布させていただきましたので、後程説明させていただきます。

では、早速説明させていただきます。

事前送付していましたが「子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査(案)」についてです。

国の要領と前回アンケートをもとに作成した素案を確認いただき、ご意見やご提案を反映したものです。また、委員の皆様からいただいたご意見等とそれに対する事務局の考え方も一覧にまとめ、添付しております。

一点、補足させていただきます。

アンケート調査案の表紙をめくって1ページ目、2つ目の黒い帯「封筒の宛名のお子さん」とありますが、こちらは0歳、1歳のお子さんの保護者宛のもので、郵送で依頼するものの表記になります。幼稚園・保育園や小学校経由で依頼する5歳児、小学校3年生の保護者宛についてはそれぞれ、「5歳児(年長児)のお子さん」、「小学校3年生のお子さん」という表記といたします。

また、各設問について、委員からいただいた意見等を反映させた部分は薄く色がついている部分になっております。

全体を通して見ていただき、お気づきの点や訂正等が必要な部分がありましたら、この場でお伝えいただきたいと思います。

今現在の予定で、0から1歳郵送約360件、5歳児園経由配布約240件、小学校経

由小学校3年生約270件、合計で約870件となります。

本会議で最終確認していただいた後に準備をすすめ、1月下旬頃から2月中旬頃まで期間を設け、回答を集約し、集約結果を今年度中に委員の皆様へ報告する予定にしております。

WEB回答については、設問数が多いので前回委員からいただいた紙の設問にWEBで回答するなど、回答しやすいよう工夫して実施したいと考えております。

簡単ですが、説明は以上です。

(副会長) ありがとうございます。説明の中で、約870件とありましたが、改めて870件の内訳をお願いします

(事務局) 0歳から1歳の保護者宛て郵送で360件、5歳児園経由配布が約240件、小学校経由小学校3年生約270件を予定しております。

(副会長) ありがとうございます。先ほど説明にもありましたが、皆さんに見ていただいて、意見をいただいたものを反映させたということですね。

870件の方にアンケートを取って、1月から2月の1か月間の間でアンケートをとられるとのこと。事務局の案について何かご質問やご意見があればお話しいただきたいのですがどうでしょうか？

こちらについては、審議事項ということで進めさせていただきます。

ご意見、ご提案はございませんか？

特に、ご意見はないということでしょうか。では、事務局の案どおりにすすめるということで、決定します。

続きまして次第の3番目、国のこども未来戦略と本市の施策の方向性について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日配布した1枚ものの資料をご参照ください。

つい先日、政府は子ども政策の方向性を定める初めての「こども大綱」と「こども未来戦略」を閣議決定しました。

「こども大綱」では重点項目に貧困対策のほか、虐待やいじめ対策の強化などを掲げ、すべての子どもや若者が幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、ライフステージに応じた切れ目のない支援の必要性を強調しています。

また、「こども未来戦略」は若い世代が結婚や子どもを産み育てることへの希望を持ちながらも所得や雇用への不安などから将来の展望を描けない現状に対して、異次元の少子化対策を実現するための政策をまとめたものです。

本日の資料は「こども未来戦略」の概要を簡単にまとめたものです。

「1、ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や若い世代の所得向上に向けた取組」のうち、具体的な施策として、話題となっているのは（1）児童手当の拡充ではないでしょうか。資料のとおり制度改正される見込みです。

（3）医療費等の負担軽減という項目がありますが、鳥取県においては令和6年度から18歳の誕生日が属する年度の3月31日までは医療費（特別医療）を無償化する予定です。

「2、全ての子ども子育て世帯対象の支援の拡充」のうち、具体的な施策として（2）幼児教育・保育の質の向上ですが、国の保育士配置基準を4・5歳児について30対1から25対1に2024年度に改正予定となっており、実に76年ぶりの見直しとなります。（3）全ての子育て家庭を対象とした保育の拡充では、親の就労等にかかわらず、保育所などに子どもを預けることができる「こども誰でも通園制度」を創設し、令和8年度には全自治体で実施するという予定で進められるということです。

こちらは、6カ月から2歳までの子どもを1月あたり10時間、預けることができますのですが、育児の負担、孤立感の解消が期待される一方で、保育現場では人手不足や業務負担の増加などが課題となっています。

「3、共働き・共育ての推進」、「4. こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」においては、男性育休取得促進、柔軟な働き方の選択、子育てと仕事の両立、など具体的な施策が掲げられています。

現在、国の「こども大綱」に基づき鳥取県においても「こども計画」を策定中です。今後、本市においても、国の「こども大綱」、県の「こども計画」を参酌し、「境港市こども計画」を策定する必要があります。

今回、この「こども未来戦略」の中だけに限らず、委員の皆様が子どもや子育てのために市で取り組む必要があると感じておられることなど、委員の皆様の私見を含めてご意見やご提案をいただき、市のこども計画策定時の参考にしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

（副会長）ありがとうございます。先ほどの説明にありましたが子ども未来戦略というところで、国の方の指針を踏まえて皆さん色々なご意見、ご提案をしていただければと思います。多岐にわたる内容ではありますが、ご意見いただけたらと思います。

（事務局）補足させていただきます。

今説明させていただいたとおり、国の方が国全体の方向性を示しておりまして、県が県内の全体の方向性を示し、それを参酌しながら市の方も市の計画を作っていきます。計画を作るにあたりまして、先ほども申しました通り、それぞれの立場で委員の方からこういうのはどうだろうか、などご意見を聞かせていただいて、計画を立てる際のヒントにさせていただければと思います。いただいた意見を議論するのではなく、こんなことをしたらどうか？という意見をそれぞれ活発に言っていただければ助かります。よろしくお願いいたします。

(副会長) 例えばぱっと聞いて思うのが、出産の一時金ですね。今まで一時金はどうでしたか？

(事務局) 加入している社会保険からですね、出産に際し 42 万一時金が支払われていたけれど、それが 50 万に上がったというのが、令和 5 年度からですかね。

(副会長) これは全国一律のものでしょうか。今、物価高なので、医療の負担やそれ以外の部分でも影響が出ているところですので、そのあたりが大きいのかなと。

(事務局) 地方では 50 万円で大体、お釣りが出る感じなんですけれども、やっぱり都会では 70 万、80 万かかるという話も聞いているので、かなり地域差があって、費用面での違いというのは出てきてるところだと思います。

(副会長) 医療つながりで、医療保険証がマイナンバーカードに変わってくるのはどうでしょうか？

(委員) 今のところ全体で 4% しか普及していない。来年の 12 月には 100% にするといわれているが。医療機関によっては楽になるところもあるかもしれない。ただ、医療機関において、システムがダウンするとカルテが使用できないし、以前からよく知っている患者ならいいが、カルテがないと全然わからない。何等かのエラーが出たときに、コールセンターが 24 時間対応しているというけど、マイナンバーカードの相談センターのように繋がらない。よくあるコールセンターで待たされるあの状態。

システムが複雑になればなるほど、どこの障害なのか分からない。

自分のところでは電子カルテにマイナンバーカードシステムを接続せず、USB で接続するようにしているが、それが全部繋がっていると、エラーで動かなくなると、電子カルテのエラーかシステムのエラーか全くわからなくなると思う。

少なくとも分けることで、電子カルテのエラーなのか、システムのエラーなのか、わかるようにしている。

とにかくシステムが複雑になるほど、エラーが起こりやすい。バックアップも無いし、心配な部分がある。政府は来年の 12 月には 100% と言っているが。

それから、今の医療保険証は今後使えなくなるが、実際に今持っている保険証が切れたら、各保険者から資格証明書が送られてくることになっている。

(副会長) 資格証明書があれば、医療を受けることができるのか。

(委員) はい、病院で保険証と同じように出せば医療を受けることができる。結局コンピューター関係の会社が儲かる仕組みになっているのかと考えてしまう。

(副会長) マイナンバーカードになるとメリットはあるのか。

(委員) マイナンバーの読み取り機械にカードをのせると、健康診断の情報、薬の情報をこの医療機関に提供しますか？と機械に聞かれる。患者が提供を承諾することで、医療機関は患者の情報を確認できるが、タイムラグがある。受診履歴や情報を共有できるという建前はあるが、例えば、職場を退職した場合、次の保険に加入するまで間は保険情報がないということになる。情報が反映されるまでの時間的なずれが問題。

(委員) どんな意見でもいいと言われたので。今、中学生と高校学生の子どもがいるが、子どもが小さい頃、保育所に預けて仕事をしており、その時は保育所に7時30分から預けて8時から17時までの仕事をしていました。仕事が8時からなので7時30分から預けて、仕事することができたが、小学校に入ったら、平日は7時30分に子どもが家を出るので問題ないが、夏休みの児童クラブが8時30分から開所で、8時に仕事が始まるので間に合わない。それで仕事を辞めて、今は違う仕事をしている。その辺がもう少し何とかならないかと思う。

(委員) 都会だと、子ども達を朝集めて待機させておく場所があって、そこから職員が児童クラブに連れていく仕組みもある。

(副会長) 児童クラブは、今までも問題点がいろいろと協議されてきていると思うが、境港市で、児童クラブはどこかの管轄になるか。

(事務局) 教育総務課です。

(副会長) 教育総務課が管轄していて、事業開始時間を8時30分からと決めているのか。

(事務局) タ日ヶ丘児童クラブは私立で児童クラブを運営されており、そこは法人が決めているが、他の6つの小学校に併設しているものは統一されている。

(事務局) 利用時間を延ばして欲しい、終わる時間を、それがもう少し伸びないかというのも意見として多いと聞いています。

(委員) 保育所が預かってくれていた時間が、1年生になって変わると困りますね。揃えていただきたい。

(委員) 条例改正すれば、可能かと。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。

(事務局) 今まで低学年だけ受け入れしていたところを全学年に広げ、改善してきてはいるのですが。

(副会長) 保育園・幼稚園の環境と、就学してからの環境と結構変わる場面において、児童クラブに関しては、夏休みなどの長期の休みの間でも、保護者の就労状況は変わらないことを考えても、お子さんを預ける環境が変わる中、保護者さんの心情からすると、検討していくべきだと思います。

(委員) 時間のことですが、うちの職員もお子さんが児童クラブを利用して、夏休みは8時30分からなので、勤務の時間をずらして、すみません少し遅く出勤しますとか、そういうことがあったりするので、働く保護者さんもそうだし、うちに勤務している職員たちも望んでいると思います。

(副会長) 児童クラブの環境の話ですが、お子さんが行きたがらないという話を聞くこともあります。

(委員) 雰囲気はワイワイとした感じと聞きますね。1年生から様々な学年がいて、色々な年齢のお子さんが一緒の空間で過ごすという中で、それぞれの年齢でテンポが違うもの。3月31日まで園にいて、4月1日から児童クラブ。子ども達はすごく差を感じていると思います。

(委員) 今、幼稚園で手厚く見ていただいている、職員配置についても幼稚園では24人に2人ぐらいでみていただいているのですが、職員の配置が1対25というのも少し不安である感じはします。児童クラブも1年生から6年生までが同じ部屋で、教育をする施設ではないことはわかるのですが、どんな風に過ごしているのかな、と預ける立場になるとちょっと不安を感じます。

自分も勤務時間の延長を考えていきたいし、会社からもそろそろ圧のかかる段階にあるので、児童クラブが充実して、小学校低学年も少し積極的に見ていただけたらと思います。

(委員) 他の県で、学童の職員に作業療法士を配置している例がある。学童に入ったけど困り感が出てきて、合わなかったということで、放課後デイサービスに移られる方も多いと聞いているが、学童や各小学校に作業療法士のように専門性をもった職員を配置して、段階をしっかりと踏んで、子どもの気持ちが整ってから、利用の道筋をつける、そういう専門的な方がおられると保護者のみなさんも安心して利用できるのではないかと思います。

(副会長) ありがとうございます。今話を聞く中で、例えば130万の壁とか、働きたいのに働けないとか、お子さんが就学になって、会社からも就労の延長を求められるなど、コロナも明けて経済を回していく中で、そういったお子さんを預ける環境が整ってないと地域の経済にもマイナスの影響が出てくるのではないかなと感じました。

放課後デイについても、定員がすごく限られている現状があると聞いています。定員を増やす、事業所を増やすなど、拡充する方向にもっていけば、より子育て支援の充実を図れるのではないかと思います。

(事務局) 子ども未来戦略の3番にあります、やはり共働き共育てが中心ということで、働き方と子育ての両立を支援していかなくてはいけないのが課題だと思います。先ほど言われたように、児童クラブの時間の問題とか、その他に預けられるところ、また、保護者と子どもが親子一緒にすごせる居場所というのが、今課題と言えます。

教育総務課にもこの件は伝えますが、本当に今お聞きした、実際に困られていることを伝え、改善できれば改善していかなくてはならないと思います。働きたいけど働けないというのが保護者のジレンマ、そこは行政としても、できることはやっていかなくてはならないと思います。

あと、市では商工会議所と、毎年懇談会を実施しており、いわばワークライフバランスのことや、企業側に様々な子育ての制度を知ってもらい、従業員が休みを取りやすくする施策などを情報提供し、取り入れてもらえるよう、働きかけを行っております。市だけで取り組んでも駄目で、やはり企業側の協力も必要だと思うので、その辺を今後行政が進めていきますので、よろしくをお願いします。

(副会長) ありがとうございます。その他に何かありますか。

(委員) 少子化に関して。今、若い世代があまり結婚しようと思っていない。晩婚化という訳ではないが、結婚する年齢で一番多い年代が27歳~28歳。色々な資料見ていると、20代から40代ぐらいの男女で、男性に多いが、これまで異性とつき合ったことがないという人が5割ぐらいいる。結局、人とつき合うというか、結婚とか交際することにメリットを感じない。1人でいたほうがいい、友達とワイワイしている方が楽でいいと、より深い関係を持つということをしなない。

男性の草食化とよく言われるが、女性も草食化。結婚する気がなく、付き合うとか、子どもを作る気もないというのが現実であり、将来展望が描けない。一人で生きられる世界になったというのが大きな原因かもしれないが、今は一人で充足できる世界、生活できる世界があるので。

(事務局) 結婚しない若者が多いというのは、その少子化の問題が始まったときからずっと言われています。行政の方も、境港市の場合は中海4市と一緒に結婚のイベントなどを開くが、参加率が悪いというのが現状。そのイベントで出会って、カップルになられた方も1組、2組、1回あたり出てくるが、なかなか実を結ばないジレンマを抱えながら、婚活支援を実施しています。

(委員) いや、それはやはり有効性がないと思います。お金だけかかるという感じがして、今は実際にマッチングアプリで相手を自分で選べる時代、今、結婚する人の十何%がマッチングアプリ。昔は会社だとか、学校だとか、地域だとかが結婚出会の場であったわけだけど、今は自分で選択できる時代。

例えば沖縄県なんかは、結婚率が高いが、離婚率も高い。その地区でしか生活しない人が多く、出てもいかない。同じ小学校、中学校、高校、そこの先輩関係とかで、付き合ったり別れたりすることが多い。狭い社会、密な社会だと結婚とか出産につながるが、一人ひとりがばらばらだとなかなか近くなれず、家庭もなかなか作ることができない。

(副会長) 少子化対策で話が色々出ているが、子どもを預ける所がないとか、今後、子どもにこういうお金が掛かるから結婚は控えるって、考えている方ってそんなにいっぱいいるのかと。自分の時はそこまで考えている人はなかなかなくて、結果的にこんなにお金がかかるんだと後から思うくらいで、結婚する、しないの理由でそこまで見通しをもって結婚をした人は周りにいなかったし、自分も違う。

仕事を通して知り合うとか、今だったらマッチングアプリとか、人それぞれだと思うが、一番はそれぞれが過ごしやすい家庭を築くことができる、価値感の合う人に出会って、結果的に子どもが生まれてとなると思う。

時代に沿ってその形が変わってくるので、今の時代どういう政策がマッチしているかというところが、すごく重要だと感じる。

少なくとも結婚するにあたって、お金が必要だから結婚しないというのは、考えな

いですね。

(委員) 実際は結婚した方が経済的に有利。一人ひとりだったら1対1だけど、二人だと大体1.3ぐらいで済む。お金的には。

独立だったら住むところ食べ物全部別だけど、一緒になったら、2倍になるわけではなく、1.3倍になる。結婚するほうが得だよ、というのは本当にそう。経済的にも。事実婚はまた別だけど、結婚で届を出すので法律的にも守られるメリットに加え、経済的には1.3倍。子どもが生まれるとさらに負担が少なくなり、行政からお金が入ってくるので経済的には1.3倍じゃなくて1.2倍くらいになり、子どもが増えれば増えるほど経済的負担が少なくなる。

(委員) そういう魅力を大々的にわかりやすく言ってほしいですね。

(委員) 昔から言われていることだし、普通に考えて1・1よりは経済的ですよ。

(委員) メディアが溢れていて、ネガティブな情報もすぐに見えやすい。

義理のお母さんと同居してそのときの辛かったとか、嫁姑じゃないけど、そんな話がぼんぼん簡単に漫画であがってきたりして、すぐに見ることができる。

それを結婚されてない人が見たら、核家族が多い時代ですが、そういう情報を見ると結婚にネガティブな印象が強くなるから、単純にいいなと思える情報が多くあれば、結婚を考える人も増えるかもしれない。

(委員) 経済的には結婚したほうがお得。

(副会長) 前にドラマで、家事をお金に換算するという話があって、今の話を聞いたら、計算だと1人よりも経済的負担が減ると。でも、家事を頑張った結果の負担減なのかなど。今は男性も家事をするが、まだ女性が中心。頑張って食事を作るから一人当たりの単価が減る。人の頑張りってそういうところで、見えない部分が多いですね。

(委員) 例えば男性で育児家事全般をやっているという人でも、見える家事と見えない家事がある。それをどこまでやっているかで、お父さんが家事をやっているになる。協力じゃなくて、一緒にやっているっていうのはそういうことで、例えばごみ捨てをやっているって自慢しても、ごみ捨てだけをやっていて、女性からしたら、何を威張っているのとなる。ごみ捨ては、ゴミ箱にゴミを入れる所から始まり、分別も必要。行程が色々あるのに、ゴミ袋だけ持って行って、自慢げに言っているとか、風呂掃除はしているというのも、どの辺のレベルでしているというのか。もちろん、実際に家事をしている人も毎回毎回フルスペックで掃除をしているわけじゃない。今日はこれを重点にしようという感じでやっているはず。全部をやるっていったら、本当にお手伝いさんじゃないですか。

実際に家事をしている女性は、水周りはすぐに汚れるところだから、ここは必ず、ここは2番目にするところ、時間があったらするところ、頭の中で考えてしている。

料理にしても同じで、優先順位をつけてやっている。男性の方は、単純なことしかしてなくて、そこまで頭を働かせて家事をしていないから、女性からすると、いつまでたっても家事を一緒にしているという実感が無い。

実際には男性女性が役割を入れ替わって、やってみてどうなるかっていうのを経験してみるのも面白いかもしれない。

(副会長) 今の考え方でいくと、男女で考えを分けるのではなく、お互い仕事をしたり、趣味を楽しんだり、人として必要な部分を尊重することで、今まで考えてなかったことも考えることができるようになるということですね。

男性の育児休暇の取得率を上げようとしているし、今働いている世代の考え方が変わると、子ども世代の考え方も変わって、結婚に対する考え方も変わって、一緒になろうという考えも出てくるのではないのでしょうか。いろいろ議論は尽きないと思いますが、時間も迫ってきたので。

それでは最後にその他事務局からありますでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。沢山ご意見いただきまして、大変参考になりました。

最後に事務連絡といたしまして、本日の資料でお配りしています境港市特定教育保育施設の変更休止、1枚もの資料でお話をさせていただきたいと思います。

一番上の変更の部分ですが、有限会社育成さんが運営されております、育成保育園、外江保育園が、来年度から、保育所型認定こども園に変更なる予定ということで、概要を載せています。

主な変更点としては、今まで保育認定のお子さんのみ、育成保育園と外江保育園に入園可能でしたが、1号認定、いわゆる教育認定のお子さんも9人まで受け入れ可能となります。今後もより一層、地域に開けた子育て支援施設として、引き続き役割を担っていかれます。

次に休止です。みなと保育園は、今年度に引き続きまして、来年度も休止を決めておられますのでご報告いたします。報告は以上となります。

今年度の会は、今回で最後になりますが、アンケートの集約結果を今年度中に委員の皆様の方に郵送で報告したいと考えております。

また、来年度は前回の会議でもお知らせいたしましたように、5月ごろ、第1回目の子ども・子育て会議を予定しておりますので、日程が決まり次第、連絡をさせていただこうと思っております。

P T Aの方は役員改選等があると思いますので、また代表者の方に推薦依頼を出させていただきますので、引き継ぎをお願いいたします。

事務連絡は以上となります。

(副会長) それでは次第に沿った内容は以上となりますが、本日の議事について、境港市子ども子育て支援事業計画アンケート調査については事務局の提案された内容で承認ということで進めさせていただきます。

子ども未来戦略についてもいろいろな意見をいただきました。市の政策のヒントになればいいと考えております。その他のところで、育成保育園と外江保育園が4月から保育所型認定こども園となり、みなと保育園は引き続き休止される。以上です。次年度の日程はまた事務局から別途連絡ということでいいですね。

(事務局) はい、1回目の開催を5月頃予定しております。開催日は別途、連絡いたします。

境港市子ども・子育て会議 委員名簿

令和5年12月現在

選出区分	氏名	ふりがな	備考	
子どもの保護者	佐々木達也	ささきたつや	小学校PTA連合会会長	欠席
子どもの保護者	近藤美瑞穂	こんどうみずほ	保育園保護者会連合会会長	欠席
子どもの保護者	金田 里美	かねださとみ	聖心幼稚園PTA会長	
副会長 子ども・子育て支援に 従事する職員	柏木 克仁	かしわぎ かつひと	境港市保育協議会副会長	
	遠藤 美和	えんどう みわ	美哉幼稚園園長	
	荒井 利恵	あらい りえ	企業主導型保育施設園長	
学識経験者	細田 淑人	ほそだ よしと	境港医師協会 竜ヶ山こどもファミリークリニック院長	
学識経験者	景山 良恵	かげやま よしえ	境港市読み聞かせ団体 境港親と子どもの劇場代表	
学識経験者	池淵 菜美	いけぶち なみ	こども未来ネットワーク代表	欠席
学識経験者	竹内美智子	たけうち みちこ	NPO法人陽なた所長	欠席
会長 学識経験者	嘉賀 収司	かが しゅうじ	境港市民図書館館長	欠席
	公募委員	宮本 剛志	みやもと つよし	元芝浦工業大学非常勤講師
	公募委員	舛岡 彩子	ますおか さいこ	境港市学校指導補助員

※1 敬称は、略しています。

【事務局】

境港市福祉保健部長	黒崎 享
境港市子育て支援課長	北野 瑞拡
境港市子育て支援課児童係長	川田 順子